

KSKP Threshold

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.6

～すれっしょんど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュホールドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です



春のいぶき 仲間がいるよ

桜の季節もあっという間を通り過ぎ、なぜかこの時期にそわそわしてしまう仲間たちの気持ちも、冬の衣類から春の衣類に変える中で、変化がめまぐるしい時期でもあります。この時期は私自身も仲間という時間を特に大切に意識しています。まだ苦しむ依存症者やその家族の支援などで、仲間と過ごす時間も少し少なくなっていた年度末ですが、仲間とワークショップをしたり、キャンプしたり、くだらない話で盛り上がりたり、私自身もその時間を大切にすることで、学ぶことも多い時期でもあります。思いつきで「つくしを採りに行って夕飯で炊いて出そう!」と言ったものの、どこにつくしが生えているかわからず「来年だなあ」ってそんな話をしています。私たちが思いつくことって、自分たちが小さいころ、家族と一緒にやったこと、教えてもらったこと、そんなことを忘れていたのを、ここダルクで肩の荷を下ろし安心して過ごす中で、また再確認してやってみようとしています。きっと、その頃の思い出って僕たちが薬物依存症になって失ってしまったもので、安心の中でその頃を無意識に思い出して過ごしているのでしょう。だから春の暖かさ、仲間の存在で教えてもらっているのでしょう。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

第1回アディクションフォーラム in ひょうご

～ひとりじゃないよ！仲間がいるよ～開催 実行委員 兵庫県社会福祉協議会 荻田藍子

平成 30 年 2 月 10 日、「第 1 回アディクションフォーラム in ひょうご」を神戸市総合福祉センターにて開催しました。同フォーラムには、アディクションを抱える当事者、家族や友人、支援者と実に幅広い層から 350 名もの方々が参加されました。

同フォーラムは、様々な自助グループを知り、アディクションの正しい知識を学び合うことを通じて、未だ苦しんでいる本人やその周辺の人たちが気づき、踏み出す勇気の一助となればとの願いで開催しました。開催にあたっては、神戸ダルクヴィレッジの声かけにより、県内の自助グループ、依存症回復支援施設、医療、福祉、司法関係者による実行委員会が組織されました。幅広い関係者の力を寄せるとともに、フォーラムを 1 回限りでなく、今後も継続するための実行委員会ですから、想いを核にスタートを切らなければなりません。そのため、組織代表というよりも、今回は自発性を重視し、多くのメンバーはボランティアで参画しました。また、兵庫県の関係者だけでなく、先行してアディクションフォーラムに取り組んできた他県、特に滋賀県の関係者にこれまでの経緯や運営のポイントを教えていただき、県を超えたつながりの中で運営の体制をつくってきました。

さて、フォーラムの様子ですが、当日は大勢の方の熱気と活気にあふれ、大盛況でした。実行委員の予測をはるかに上回る参加が得られ、準備した資料が不足するくらいでした。午前中は自助グループ紹介、午後にはモデルミーティングや当事者による体験談スピーチ、そして藍里病院副院長の吉田精次先生の記念講演により医学的見地から依存症の理解を深めました。別会場では、約 20 団体がブース設置やチラシ配布を通して、自助グループの活動を自ら発信しました。こちらも大勢の方が足をとめ、熱心に資料に目を通しての姿がみられました。

今回のフォーラムは、アディクションをテーマに関係者が一堂会する初めての場でした。これにより、自助グループ、医療・福祉・司法の幅広い関係者の顔の見える関係が広がったことは非常に大きな成果だったと感じています。実行委員会ひとつとっても、様々な経験と知識と強味をもつメンバーが顔を寄せ、一緒に事を成そうとすることで、議論は深まりましたし、フォーラム運営の大きな力となりました。

もう一つは、今後、本フォーラムを継続することで、自助グループ間のつながりが生まれ、ひとつの層を形成するというのもフォーラムの成果になるのではないのでしょうか。現段階では成果というより、期待というべきかもしれませんが、私はこのフォーラムを継続し、アディクションと自助グループが層を成して社会的に認知されることで、フォーラムが当事者にとっての灯台のような存在になっていくと思っています。今回のフォーラムで、私はアディクションに対する関心の高さと、このような場が切に求められている現実をまざまざと感じました。自分のことを簡単に吐露しにくいからこそ、自分も他人も傷つけずに生きてこられなかった人々が、もうそんなことをしなくても生きられるように、「ひとりじゃないよ！仲間がいるよ」のメッセージが行き届く取り組みを、みんなで育てていきましょう。



APF アジア太平洋地域フォーラムでバンコクに行ってきました。

一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

自助グループの活動の一環で、バンコクでの会議に参加させていただきました。自助グループのことなので、あまりここでは詳しくは書けませんが、アジア太平洋地域(ハワイやオーストラリア、東アジア、ASEAN、中東などのメンバーが集まり、アジア太平洋地域のつながりや、問題について、また近隣国の薬物依存症コミュニティの発展などについての会議になります。その会議終了後に、バンコクでのコンベンションもありました。

今回のコンベンションは非常に歴史的なイベントでした。小さなことから仲違いして国内で同じ自助グループが分裂してしまい8年が過ぎ、今年もう一度タイ王国全体で一つになろうという記念のコンベンションでした。まさにその通り、参加者や主催側の熱気はすごく、歴史的瞬間にその場所にいられたことを心より感謝するばかりです。何カ国参加していたかわからないくらい世界中の仲間がその瞬間のために参加していました。

また、私はフィリピンがメインでしたが、タイでの活動もトータル半年ほど住んで活動していたこともあり、6年ほど前から訪問していたのですが、その頃ミーティングに参加していたメンバーの女性で「いやーちょっと大変な人だな」と思っていた人がいたのですが、今回のコンベンションで再会したのですが、その頃からすったもんだしながらも、ミーティングには通っていたらしく、全くの別人になっていました。自分のことを棚に上げますが、「回復ってすごいな」って思えるほど、誠実そうな優しい顔をしているその仲間の姿に、心の底から感動しました。

また、数年前に国立病院の心理士さんから紹介された日系の依存症の仲間のお母さんが、コンベンションの会場まで僕を訪ねてきてくれました。これまで、その仲間をできる範囲でサポートしたり、お母さんに助言したり、関係機関につなげたりしてきたのですが、やはり問題は変わっておらず、重複障害の問題もあり、国内の制度ではなかなか難しいことから、夜遅くまで色々今後のことを話しました。話していく中で、お母さんの顔が緩んでいき、笑顔も見られたのですが、私にできる精一杯のことではありましたが、もっと力になれるのかと自分の無力さを感じました。社会保障制度なども十分のようで十分ではない ASEAN 諸国を思うと、色々と言われながらも日本の社会保障制度のありがたさを痛感します。社会保障制度がなければ、現在のダルクは成り立っていないです。

そんなことも含めて、またたくさんの仲間ができました。同じ思いと一緒に考えられる仲間が世界中にいます。回復の中での出会いが私たちをクリーンでいさせてくれます。感謝しています。



ダルクに来て感じたこと

マサ

初めまして。私は2018年の2月7日から神戸ダルクに通所に通っている、マサと申します。過去に大阪にも10ヶ月程通っていたことがあるのですが、その後半年程働いて、スリップ(再使用)をして、病院に2ヶ月入院して、神戸ダルクに繋がりました。神戸ダルクは仲間やスタッフがとても暖かく、依存症と言う病気に関して、とても寛大な対応をして頂ける場所である、という風に感じています。一度、ダルクに来てから処方箋でスリップ(再使用)したことがあったのですが、次の日にこちらに来て施設長やスタッフ、仲間に報告すると、『ダメじゃないか!』と一喝食らうと思って逃げ出してしまうと思ったのですが、『まあそれはしょうがないな。それよりも、なんでそんな気持ちになったんだろう? 正直にいうのは勇気がいっただろう。正直に話してしまどんな気持ちになってる? で今日からどうしていけばいいと思う?』という話を真剣に時間をとって聞いていただきました。『あ、薬ってこうやってやめていくんだ』って、初めて感じました。ここにいることはとても安心出来る、と感じました。仲間同士の関係もイザコザや揉め事もなく、ミーティングや食事作りからNAに行くまで行動を共にし、皆が一歩譲り合うようないい関係が築けていると感じています。私はこれからも依存症という病気とゆっくり付き合っていきたいという前向きな気持ちになれたし、焦らなくてもいいんだな、と思いました。みなさま、これからもよろしくお願いします。



自分の気持ちを吐き出す場所

グリーン

私は40歳頃に出会い系サイトで知り合った人に勧められるままに覚せい剤に手を出してしまいました。その時の性的興奮感を忘れられなくて、その出会い系サイトで知り合った人と薬を使い続けました。最初はその出会い系サイトで知り合った人とだけで薬を使いましたが、どんどん深みにはまってしまい、大量に覚せい剤を購入し、自宅で使うようになりました。

あまり、覚せい剤の使い方がよくわからない時に大量に使用し、オーバードーズで、救急車で運ばれて、一度目の逮捕となりました。

執行猶予の判決を受けて、出てきた後も覚せい剤は止まりませんでした。遂には2度目の逮捕となり、刑務所に行くことになりました。出てきた後、大阪ダルクに通いましたが覚せい剤は止まりませんでした。大阪ダルクでは何か、居場所の無さを感じてしまい、吐き出せない苦しい気持ちを抱えたまま生活していました。

結局、それから2回刑務所に行き、合計3度の刑務所生活を味わいました。

3度目の刑務所に収容されている間に、父がガンでなくなりました。死に目にも、葬式にも参列できず、父には本当に申し訳ない事をしたなと思いました。

3度目の刑務所も出所間近になった頃、母から神戸にダルクができたのを聞かされて、神戸ダルクの人と会ってみたいと言われましたが、その時は拒否してしまいました。

しかし、出所後、このままでは、また刑務所に入って母の死に目にも会えないと感じ、神戸ダルクに通う決心をしました。

通い始めてみると、自分の今までの鬱積した気持ちをミーティングで吐き出せるようになると自然と覚せい剤に対する欲求を無くなってきました。今は、社会復帰して、仕事のストレスにも耐えられるように、日々、ダルクでのプログラムに取り組んでいます。その結果、母や妹との関係も良くなり、自宅での生活も充実してきました。

近い日に職を得、アディクションと上手に付き合いながら社会復帰をしたいと考えています



出会い

シモ

こんにちは事務スタッフのシモです。パニック障害で外出できなくなり、日々の襲ってくる不安感をアルコールでやり過ごすようになり、そのまま医療保護入院となりそこでのケースワーカーの紹介で福祉の専門学校に入学を決めました、その専門学校で同級生として知り合った施設長ウメさんにさそって頂きスタッフとして今、お手伝いさせていただいています。僕自身ここで働いているというつもりはなくて、皆とただ楽しく生活させてもらっていると言う感覚です。ここを手伝いだして最初に起こった出来事がとても印象に残っています。それは、仲間同士で睡眠薬のやり取りがありそのことが大問題になったことです。ただただ、眠れないという仲間同士の行動でした。僕にはなにが問題なのか理解できませんでした。一般的にみればささいなことだからです。

しかし今となっては、薬に対してそれほどまでに潔癖でいなければならない理由が、日々、自身の依存症とゆう問題と向き合いながら生きている仲間の生活を見ていると理解できるようになりました。ここで毎日を真剣に生きる皆の生活に触れられることは自分自身の生活の大きな糧になっています。一人籠った日々の生活の意味も分からなくなっていた自分もこうして皆と出会うことができ、充実した日々を送れています。

年明けの精神保健福祉士の国家試験も合格できました。感謝するばかりです。

REACHING OUT

(塀の向こうからのメッセージ ※本人に許可をもらっています。)

リーチングアウトとは手を差し伸べるという意味です

拝復

お便りありがとうございました。そろそろ春ですね。気温も上がるばかりでそとでのソフトボールをしていると汗が出る日々です。今回の手紙も胸に突き刺さりました。早く幸せになりたいと思います。梅田さんとの手紙で、この中でも、気持ちを改善するのには時間があり、考えるチャンスかも知れません。まだまだ自分は弱く、自分が嫌になることも多々あります。梅田さんが教えてくれたダルクのこと、NA のことなどを運動の時間に話したりするので、みんな耳を傾けてくれます。雑居にいた時は送っていただいた「今日だけ」の本の内容を話したりして、真剣に聞いてくれていました。今僕の周りにいる人は、薬物をやめたい気持ちで一杯なのです。薬物をやめ続けていれば本当に幸せになれるという言葉信じ、幸せになれる日を夢見て今日はペンを置こうと思います。私には妻も子供もいませんが、梅田さんの子供たちと遊べる日を楽しみにしています。

平成 30 年 3 月 15 日 梅田靖規様 T.Y
敬具



UCC コーヒー
工場見学
(左)とデイキ
ャンプを終え
て(右)

リカバリーレディオ絶賛オンエア中!

みなさん、まだ神戸ダルクヴィレッジのリカバリーレディオをお聴きになっていない方がいましたら、試聴方法をお知らせします。

- 1 まずは携帯電話かPCの検索窓で「神戸ダルク」と検索して神戸ダルクのウェブサイトにお入りください。
- 2 サイトの中に、右のチラシと同じバナーがありますので、それをクリック。
- 3 その中で、12のメッセージが選択できますので、そのままお聴きください。

- 第1回放送 女性の回復者からのメッセージ
ちえぞうさん
- 第2回放送 ダルクスタッフからのメッセージ
沖縄ダルク ジャンボ&リュウジ
- 第3回放送 ソーシャルワーカーからのメッセージ
NPO 法人アパリ コーさん
- 第4回放送 ドクターからのメッセージ
NCNP 松本俊彦先生
- 第5回放送 法務省矯正局からのメッセージ
矯正局岡さん、宮城刑務所中村さん
- 第6回放送 ダルク施設長からのメッセージ
木津川ダルク 加藤武士さん
- 第7回放送 家族支援の立場から
NCNP 近藤あゆみ先生
- 第8回放送 自傷というアディクション
リカバリーパレード おまけさん
- 第9回放送 家族からのメッセージ
神戸ダルク家族会のお母さん
- 第10回放送 ダルク創設者のメッセージ
NPO 法人アパリ 近藤恒夫さん
- 第11回放送 回復中の仲間からのメッセージ
神戸ダルクの仲間たち
- 第12回放送 リカバリーレディオ誕生まで
神戸ダルク 嶋田靖規



リカバリーレディオ
絶賛配信中

詳しくは
神戸ダルクの
ウェブサイトから



様々な回復のメッセージや、支援のメッセージを、気持ちのいい音楽をバックに、ゲストの方々が、未だ苦しむ方々がどこかでこの番組をみつけてもう一度やり直せるということを感じて欲しいと、自分の経験と、支援の経験と情報を温かく話してくれています。家で仕事をしながら、電車の中で携帯電話でイヤホンから、いつでもどこでも24時間聞くことができます。

軽い気持ちで聴ける番組です。私も今、近藤さんの話を聴きながら、このニューズレターを書いています。これからも、継続して番組を作っていきたいと思っています。しかし、番組を収録する資金がありません。皆様のご支援をお待ちしています。



活動報告

2018 年 1 月

初詣 西宮えびす神社
新春おせち交流会
京都伏見稲荷フェローシップ
新春すき焼き・カニすき交流会
木津川ダルク合同レクリエーション
京都ダルク合同レクリエーション
近畿地方更生保護委員会講演
震災の集い参加
NA 中国エリア H&I ワークショップ参加
兵庫県播磨町立蓮池小学校講演
丹波市立新井小学校講演
兵庫県更生保護委員会姫路講演

2 月

自立訓練研修大阪
久里浜アルコール依存症施設職員研修
法務省矯正局面談
グリコ工場見学
アディクションフォーラム in ひょうご開催
関西圏ダルク施設長会議(高知)
高松刑務所薬物教育
アジア太平洋地域フォーラム(バンコク)

3 月

西宮市立西宮高等学校講演
明石市長様面談
保護観察所ネットワーク会議
ダルク調査会議参加
消防訓練
久里浜ギャンブル依存症施設職員研修
お花見バーベキュー

4 月

UCC 工場見学
キャンプ in 神戸(洞川教育キャンプ場)
社会福祉研修所講演



OP とグリコピア社会見学

近況報告・活動予定

6 月以降に明石でセミナーを開催するための準備や、家族会参加の家族が増えてきたので、内容を充実させるための準備などを行っています。仲間とは、この夏にどれだけアウトドアで遊べるかを妄想しています。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」

年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュヨルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年 6 回発行で 2000 円になります。お申し込みは FAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニュースレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。

個人会員は 1 口 1 万円からになります。

ご連絡をお待ちしています。

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談

相談の内容に関する秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは 24 時間 OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々を支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

藤澤真知子様 高田安世様 笠置伸子様 横田尤孝様 中西礼皇様 新保桂様 曾和義雄様 平野茂様
辻元芳人様 葉師寮 田上龍太郎様 高田安世様

ご献品

アゲイン様 竹川智恵子様 山下桃子様 山岡明久様 大山公子様

(平成 30 年 1 月 6 日～平成 30 年 4 月 10 日到着分・順不同 ※購読料の方を含む)

献金・献品をお願いいたします。

いつもご支援いただき誠に有難うございます。毎回のお願いで本当に心苦しく思いますが、運営維持のためのご寄付及び、ご家庭で余っている日用品の献品をお願いいたします。

薬物依存症者への初期の支援は、様々な問題や、面会、面談、訪問、手続き、会議などで追われてしまいます。が、そのような支援、さらに刑務所入所者、逮捕者への支援は、すべてボランティアにて行われています。しかし、そのような支援が本当は一番大切であり、依存症者の回復のチャンスを絶やさないようにしたいと考えていますので、何卒ご支援のほどよろしくお願いします。

ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から、洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。グローブなどもございましたら是非送譲ってください。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

なんとか年間6回の発行をすることができました。

刑務所の中にいる依存症から回復したい仲間との文通の中で、ニューズレターをすごく楽しみにしているという返事が非常にたくさんあります。編集しながら、地域の方に見ていただくために作る気持ちと、堀の中へ希望が運べるようにと作る気持ちが混ざりながら作業をしています。この1年で神戸ダルクヴィレッジも大きく変わりました。仲間が成長しています。そのおかげで問題が起きてみんまで解決できるという気持ちが持てている自分に居心地の良さを感じている日々です。ありがとうという気持ちを毎日感じています。

神戸ダルク ニューズレター Threshold (出発点) Vol.6

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田瑞穂

印刷 プリントバック

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部 100円 年会費 2000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定額刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階